

私は五木で生まれ川辺川で泳いで育ちました。

川の浅瀬の石を裏返して虫を捕まえ餌にして魚釣りを楽しんでいました。

このころ、川とは水がきれいでもこの川もこんなものと思い川辺川の恩恵には全く気付いていませんでした。

中学生の時、「ダムは必要か」「必要でないか」アンケート調査がありました。

どこからのアンケートだったかは定かではありません。

「五木の中心地が水の底に沈んでしまう。豊かな自然をなくしたくない」と漠然とした理由を書き、ダムは必要でない方を選んだのを覚えています。

周りの友だちも必要でない方をほとんどが選んでいました。

今年になって、テレビのニュースで、国交省より五木中学校に出向き、生徒対象に大切な命を守るダム。流水型ダムだから水も汚れないし、鮎も生息するような説明がされているのが放映されました。

熊本豪雨災害の検証は不十分なまま、ダムがあったら命が守られたかのように受け止められる、ダムありきで説明があっているのに驚きと怒りがわきました。

話は、戻りますが、成人してから、夫とカヌーをする機会がありました。

カヌーの上では水しぶきを浴びます。川辺川の水しぶきはひんやりと、気持ちいいのです。

また、水の泡を手の平に乗せるとさっと消えます。

その泡が消える時、ちょっとくすぐったい感じがしてとても心地よいのです。

球磨川をはじめ四万十川や宮崎の北川などを下りました。

私が下っている川の数はいくつか少ないですが、それぞれ様々な魅力があります。このような心地よさを感じるのは特に川辺川です。

川辺川の水面に太陽の光が当たりキラキラ光る様は言葉では表せないほどの感動です。水質日本一ならでの光景だと思うのです。

また、年一回ほどではありますが川辺川のほとりでキャンプをします。

夕方になると、魚が水から飛び跳ねます。水面の上に飛び虫を食べているのです。

空の方に目を向けると翼を広げゆっくりと旋回している大きなトンビが数羽見えます。

水面のあちこちで飛び跳ねる魚を見ながら、時には空に目をやり川辺川の流れを見つめていると次第に薄暗くなり夜に入ります。

朝になると、小鳥のさえずりで目が覚めます。

小鳥が浅瀬で水遊びをしている光景を眺めながら、コーヒーを飲み、ゆったりとした時間をすごします。

現実から離れ、心も体もリラックスできるのです。

川辺川は私を癒してくれます。とても人近い川なのです。

緑豊かな山々の深い谷間を流れる川辺川。自然たっぷりの川辺川。

そんな川に巨大なダムを作るなんて考えられません。

穴あきダムといっても水は溜まります。たまり水は濁ります。

穴も流木や土砂で詰まる可能性もあります。

もし川辺川ダムが出来、令和 2 年の熊本豪雨災害以上の雨が降り、市房ダムと川辺川ダム両方の水を放流しなければならなくなった場合、人吉はどうなりますか？

本当にダムで命を守れるのですか。

また、鮎やヤマメは岩場が大好きです。汚いたまり水では元気に育ちません。

鮎漁を生業としている人たち、五木村のように、清流を生かした観光業を試行錯誤している人たち

の意見を尊重してください。

川辺川ともに生きてきた人たちの思いはどうなるのですか？

五木村を反対派賛成派と半世紀にわたり二分させ、ようやく落ち着いたかと思うと令和二年の豪雨災害を理由にダム建設を浮上させ、また住民を苦しめるのですか？

元国交相の方の話を聞いたとき、次の言葉がすっと胸に落ちました。

「ダムが役に立つのは水害時のほんの一部。それ以上の降水量になった場合ダムは危険」と言われたことです。

自然に逆らい、自然を壊してまで、とてつもない大きなダムを造る。しかも流水型ダムだから清流も守れる。など安易な考えを持ち日本で一番大きな流水型ダムを造る。命は守れないとわかっているにもかかわらず、熊本豪雨災害を理由に作るのはなぜですか？

川辺川ダムを造るための予算はこれまでも2200億円かかっているそうですが、これから本体分2700億かかると聞いています。

その本体着工分2700億円を自然に逆らうことなく自然と共存し災害を最小限に食い止めるための研究とその対策に充てることはできないのですか？

一市民の素朴な質問です。